

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家【さくら棟】		
所在地	岩手県奥州市江刺区田原字大日195番地1		
自己評価作成日	平成24年9月27日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&ligvosyoCd=0371200387-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成24年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地を利用して入居者と職員が共に作業が出来る畑を用意して作物を作り収穫する喜びを味わっています。毎月写真入りの近況報告を兼ねて『花だより』を家族様へ届けています。年2回ミニ運動会を実施しています。地元消防団の協力をいただき避難訓練を実施し地域との関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い眺めの良い丘の、広大な敷地に2ユニット型のグループホームがあり、廊下をまたいで右側に同法人のデイサービスセンターが併設されている。きれいにデザインされた庭の前後に、利用者さんの畑と職員の畑があり、互いに収穫の楽しみを味わっている。天気の良い日はホームの庭園を散歩したり、広いリビングの外に椅子を出して日向ぼっこしたり、お茶会をしたり、または長く広いリビング内で、家族交じりの年2回のさくら棟としらゆり棟のミニ運動会をしたり、様々なゲームを楽しみ、生き生きした雰囲気をかもし出している。両ユニットの風呂は千貫石温泉の湯を汲み入れ、温泉気分も十分に堪能される。利用者さんと若い職員達は自然に家庭的な雰囲気でも互いに会話され、非常に微笑ましい雰囲気である。地元消防団員が数名運営推進会議に参加し、また避難訓練にも来て頂き、防災の面でも大変貴重な提言や指導を頂いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を策定し、ホーム内に掲示している。「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」とこの理念を目標に介護の実践に活かしている	毎年、全職員で独自の理念を見直し、多少のアレンジをしていたが、今年度はそのまま続行している。「笑顔」「和」「支え合い」の理念をミーティングの都度、管理者が声掛けし、全職員が常に意識し、微笑ましい雰囲気です日常業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会等、地域行事に参加している。利用者の活躍できる場があれば更によりかと思う	ホームは地元保育園の散歩コースになっているので、子供たちとの交流を利用者が大変喜び楽しみにしている。自治会に加入することで運動会・夏祭り・町内クリーン作戦・江刺甚句祭り等々、多彩な催しを楽しみ、盛んに交流されてる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はミニ運動会、夏祭り等色々な行事に地域の参加の呼びかけを行い認知症の人の状況を理解していただくよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の様子を写真、ビデオで撮影し運営推進会議で見せて皆さんの意見を聞き今後のサービス向上に努めている	前回の運営推進委員会は地元の消防団員がホームからの声掛けにより4名出席され、同時に避難訓練を行い、貴重な提言を頂いた。次回の運営推進委員会にはホーム内での敬老会のビデオを見ていただき、感想・提言を頂く予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として市の担当者も会議に出席されるので情報を交換しながらサービスの向上に努めている	併設のデイサービスがあることと、ホーム内に居宅介護支援事務所もあることで、市の担当者が頻繁に出入りしながら、ホームとのコミュニケーションをとっている。また運営推進委員のメンバーでもあり、会議の都度、連絡事項や提言もいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止部会を設置していますが最近部会は休止状態です。身体拘束ゼロ宣言をホールに貼って常に職員の目に留まるようにしている	身体拘束3原則(切迫性・非代替性・一次性)を掲げ、徹底して「拘束なし」をホーム全体に浸透させている。玄関は24時間施錠なし。帰宅願望者には気持ちがまぎれるまで、職員が付き添い、散歩・外出・場所を変えての就寝等々、工夫・努力されている。家族にも写真などを交え実状は知らせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し理解を深めるよう努めている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については以前利用した入居者がいたが、現在は利用していない。成年後見制度については、制度があることは理解しているようであるが、ホームとしてそれを深めるまで至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は家族、利用者と面談を行い、同意を得たうえでやっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された時に出来るだけ会話の中で聞くようにしている。玄関の所に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことが出来るようにしている	家族アンケートを近いうちに予定している。家族が面会に来られた時が一番詳しく会話ができる。受診の際にもある程度の話し合いができる。距離的に訪問できない家族には電話等で話し合うこともある。毎月ホームでは「花便り」を発行して家族に近況報告もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員のミーティングを随時開催している	毎月の職員会議や日々のミーティング時に、業務上の課題を話し合ってる。管理者も職員同様に夜勤も含み、業務に当たってるので、職員全員が分け隔てなく意見や提案が出し易い雰囲気である。職員が自由にその都度メモができる気付きノートも用意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①36協定の締結や就業規則の見直しを行い労働条件等の整備を図っている。②就業後の資格取得等を積極的に支援し取得後には給与面に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修にも積極的に参加できるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や奥州ブロック定例会に参加し、交流、情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居者のご自宅を訪問し本人と面談し心身の状況を把握する様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居者のご自宅を訪問し家族と面談してニーズを把握できるよう配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人並びに家族の意向をケアプランに反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理下ごしらえ、食器拭き、掃除や洗濯など利用者とともにやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな行事にも声をかけ関係を築いている。また、来所時には管理者が家族と話合いの場を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や年末年始の帰省、行事への参加を呼びかけ面会を通して繋がりを保つ事が出来るよう支援しています	盆・正月の帰省や行事への参加呼びかけは、主としてホームの広報「花たより」で連絡している。今年のお盆は3名が外泊し、2名が外出した。馴染みの床屋は2か月に一度出前できてくれる。また、日曜の午後と月曜の朝は利用者の希望で交互に馴染みの店に買い物に出かけたりして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席もその都度工夫し、食事が困難な方は職員が間に入る。レクリエーションの際も馴染みの関係(顔見知り)に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も医療機関や施設等に情報を提供しサービスの継続が図れるよう配慮している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、趣味等を家族と話し合い、本人の希望を聞いたうえで、食器拭きの手伝いや畑の草取り等本人の能力も勘案し役割を決めている	生活歴や趣味などを理解したうえで、毎日のかかわりの中で希望を聞いたりして、新聞とり・皮むき・おしぼり用意・おぼんふき・畑仕事・カーテン開け等々殆ど役割をこなしていただいている。また趣味でさしこ・編み物などを行う利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での状況を家族から聴取したりレクリエーション等を通して現状を把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の中に個人の行動特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成し3ヵ月毎モニタリング実施。介護計画の立案に関しては職員相互に話し合って立案するよう心掛けている。	利用者本人や家族からは日々のかかわりの中で思いや意向を聞き、職員全員で意見交換やモニタリングをして場合によっては医者の意見も取り入れ、3か月及び6か月または変更時に介護計画を立案し、家族から確認・署名を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するに当たり気づいた事を気づきノートを用いて職員間で共有し話し合う時間を作っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスの行事にも参加し交流を深めている。また、家族が希望した場合は入居者と一緒に宿泊して頂けます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地元消防団員の協力による避難訓練の実施等、外部と交流する機会を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヵ月1～2回受診。特段の希望がない場合はホームの協力医療機関を利用いただいている	殆どの利用者は事業所の協力医へ職員対応により通院している。以前からのかかりつけ医を利用されてる方は全体の3名程で、これは家族が通院対応している。何れにも普段の状態(バイタル等)は主治医に詳しく伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職なので常時緊急時対応が出来るよう連絡体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が医療機関に入院した際、病院を訪問し状態を関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化に係る指針を説明し同意を得ている	重度化した際の事業所のとるべき指針を入居時に本人・家族に詳しく説明し、できるだけ希望に添えるように対応している。事業所の方針としては看取り介護はしない方針である。	最後の看取り介護まで希望されることが多々あるが、早い段階で本人・家族に方針を説明し、互いに共有されることも大切である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを全職員に配布すると共にホーム内での応急手当初期対応について看護職員の指導の元、訓練を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施。運営推進委員協議会の日に合わせて避難訓練を実施した。地域の消防団の皆さんの協力体制が出来た	運営推進会議に合わせて地域の消防団も含め避難訓練したことで、消防関係者との協力体制が一段と強力になってきた。年2回行っている。マニュアルも目下作成中である。夜間訓練も、機会を見て実施する予定がある。	避難訓練時に利用者の見守り等で近隣の協力体制も必要であるので、運営推進会議の際にでも、地域への声掛けをお願いすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には特に注意して取り扱っている。声掛けについては命令口調や子供口調のような言葉は使用せず、わかりやすい言葉でゆっくりと声掛けをしている	孫の代の若い職員達が尊重・誇りを損ねないよう、自然に家族的な雰囲気をかもしだしており、微笑ましく対応されてる。毎日、昼食後(昼寝時)の余裕のある時間に管理者が中心になり、尊厳とプライバシーなどの話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を職員からの問いかけによって自分で決定できる様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や都合を優先せず、帰宅願望時は寄り添ったり、徘徊の際は見守りしたり等、利用者のペースを優先させるよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容されている。おしゃれは着替えは服を決めて頂く。2カ月に1回は理美容床屋も利用し、顔そりもしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の夕食と月曜日の朝食を「おたのしみ献立」として利用者と職員が献立を決めて一緒に買い物へ行き、食事、片づけをしている	まとめて購入する食材の点検と、週に一度のメニュー点検に法人の栄養士が立ち会い、安全でバランスある食事に心がけている。毎食前、一斉に口腔体操も欠かさないで実施されている。また、日・月の「お楽しみ献立」も利用者にはかなりの楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が毎月栄養分析している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、ブラッシング、うがい、義歯洗浄を行っています。毎食前口腔体操を行っています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握の為、利用者ごとに排泄チェック表をつけている	両ユニットで8名の方が自立排泄可能(多少の見守りあり)あとの方々はチェック表にてパターンを把握し、誘導・見守りが必要。見守り介助は、トイレ内の隣にカーテンを設け、羞恥心を与えない様にして状況を伺えるようにうまい工夫をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分確保に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿った入浴を心掛けていますが職員の都合で決めているときもある	一番風呂でなくては入浴しない方もおり、午前中から入浴可能にしている。千貫石温泉のお湯を利用してるので大好評である。入浴拒否される方は、仲の良い方と誘い合っ一緒に入って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて居室に限らずソファーや畳などで休んで頂く場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人チャートに綴り確認をしている。さらに予約の際は、一人ひとりの確認票により確認している。病状の変化があれば看護師に連絡するようにしている。場合によっては係りつけ医に相談し指示を得る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の野菜作り、洗濯たたみ、食事の準備など入居者の得意とする日々の役割を設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て歌を歌ったりお茶を飲んだりしている。ドライブや買い物と一緒に出かけている。お盆や彼岸は墓参りの為家族と外出される方もいます。	広大な敷地内を、天気の良い日は欠かさず15分ぐらい散歩している。帰宅願望の兆しが見えてきた際にはドライブで気分転換を図ったり、盆・正月の帰宅も積極的に勤めている。毎週の「お楽しみ献立」の買い出しも、楽しみにされている。利用者の希望により、花見や紅葉狩り、史跡見学などに出かけている。外気に触れる生活に力を入れて取り組んでいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが小口現金として管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話を利用されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースが取れているのでレクリエーション活動やソファ等も配置しゆったりと過ごせる。天窓もあり風通しの良い状況作りをしている	ミニ運動会もできる程の広く長いホールにテーブル・ソファ・テレビが程良く配置され、壁には運動会敬老会・夏祭り等のスナップ写真が数多く貼ってあり、ホームの活き活きた生活ぶりが伝わってくる。天窓があることでホーム内は非常に明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った利用者何人かで集まれる場所、ソファなどリラックスされる場所など工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等持ち込み可能にしております	馴染みのものの持ち込みは認めているが、ケガなどの危険性のあるものは置かない様にしてしている。床掃除は職員が行い、その他の整理は利用者さんが思い思いに整理されている。フローリングにベットの各居室はスッキリした感じである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	歩行困難な方は、居室内でポータブル便器を利用している。トイレ、居室等に大きく名前を表示している。日にちや曜日がわかるようにホール内に表示するなど自立した生活を送れるよう工夫している。		